事業所名 グループホーム朋寿
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成18年10月24日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 デイサービスセンター管理者
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、福祉住環境コーディネーター、音楽療法士
B:現職 理学療法士
資格・経験 理学療法士、介護支援専門員、ガイドヘルパー講師(3年)
B:現職 高等学校非常勤講師
資格・経験 看護師、社会福祉士、福祉住環境コーディネーター

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・水島港に程近く、瀬戸内特有の穏やかな陽の光が注ぐ小高い丘に位置している。3ユニットのグループホームで、1階に2ユニット、2階に1ユニットがあり、1階の2ユニットは、ゆくに10畳以上はあると思える渡り廊下で繋がっている。渡り廊下はサンルームのように明るく透明な空間で、左右にはけや木の木が植えられ、美しい景観をかもしている。庭では草花や野菜作りができ、気軽に出入れる洗濯干し場もある。
- ・管理者や職員は法人代表者の趣旨を理解し、「自然で笑顔が溢れる家族作り」という同じ目的に向けて協働している。
- ・3ユニットはそれぞれに特色があり、3家族といった趣きで好ましい。また、管理者は各ユニットの責任者を信頼しており、良い関係で仕事が出来ていると感じた。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

- ・入居者の行動記録や介護計画を月に一度家族に送っており、なかなか継続しにくいことをよく預められていると思う。できればその際に、入居者の暮らしがりを一筆書いたり写真を同封して知らせたりすれば、家族と入居者、ホームとのより密接な関係作りの一助となるのではないだろうか。
- ・近隣地域との連携や交流のために色々な取り組みをされている。入居者の生活をより広げていく為に、益々積極的な馴染みの関係作りや活動の機会作りをお願いしたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭として家族のような関わりを持ちながら、充実した生活を送ってほしいと考えている。自由で過ごしやすい雰囲気を作り、「ここにいて良かった。」と思ってもらえるような楽しい家庭を目指している。 ・入居者一人ひとりの能力を引き出し、少しのことで「出来ること」や「経験のあること」を具体的に表出し、毎日確実に出来るようにプランを立て支援している。 ・健康的に安心して過ごしていただくために、いつでも気軽に相談できる医療協力体制の強化に努めている。 		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室の窓からは、周りの民家や神社に続く小道、端端の草花が咲いている様子など、見慣れている懐かしい風景が広がりが落ち着ける。居室内には入居者が馴染んだ調度品や物置、作品が飾られ、その人らしさが生かされている。 ・ホーム内には、散歩で採ってきた草花があちこちに生けられ季節感に溢れており、日々の生活の中でささやかだが大きな満足感が感じられる。 ・一人ひとりの有する力を把握して、日常の中に楽しみごとや出番作り、役割作りをしている。 ・職員は常に温かみのある言葉がけをして、明るくゆったりと接している。 		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人であることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間の危険防止の為に各居室に小窓があるが、花柄の布などで覆ってプライバシーに配慮している。 ・個々の趣味や経験を暮らしの中に生かしている。ずっと料理屋を営んでこられた人には食事の盛り付けを教えてもらったり、ハーモニカが吹ける人にはバックグラウンドミュージックとして吹いてもらったり、絵が上手な人には絵を描いてもらったりなどしている。また、台所仕事や掃除、水遣りなど得意なことや好きなことをしていただき、職員も一緒に喜び、自信を取り戻してもらおうような取り組みをしている。 		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・事故報告書はあるが、一括管理となっている。今後は、[ひやりはっつ報告書]も作って各ユニットでも管理し、大きな事故に繋がらないよう、再発防止に向けて取り組んでいけるようお願いしたい。 ・ホーム内外の研修について報告する機会を作り、不参加の職員にも回覧して職員全体に周知が図れるようにしていけたらどうだろうか。今後は、職員全体のスキルアップに向けて研修制度を進めていただきたい。 ・避難訓練を行っており、引き続き、緊急時や災害時の非難経路・方法について検討を重ねると共に、近隣地域との協力体制づくりを進めていただきたいと思う。 		